

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「明るく楽しいサンサン家族」を目標にご利用者と職員が馴染みの関係を作りながら、地域のボランティアと協力のもと買い物・外出・外食を楽しんでいる。	「明るく楽しいサンサン家族」を基本理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりに自然な対応を心がけ、日々のサービスを実践している。理念は職員会議等で職員全体で話し合い、全員への浸透を基本に作り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は実施できていない。週に1度地域の方がボランティアに訪問。プレジョブ(職業体験)の受け入れを実施。外出・外食、行事にもボランティアより協力いただいている。また地域の床屋や八百屋の配達の利用等行っている。法人では年に1回地域に向けてのお祭りを開催し、グループホーム職員も委員として参画している	週1回の定期的なボランティアや民生委員の訪問、学生の職場体験や研修生の受け入れも積極的に行われている。近くの商店への買い物等、近隣に住む人達とふれあう機会は多く、近隣住民や、馴染の方も気軽に立ち寄ることの出来る施設を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度より法人が受託している家族介護者教室へ管理者がスタッフとして参加。認知症の理解や介護に関しての質問相談に対応している。また資格取得のための実習生を受け入れ、地域の実習生に認知症やグループホームや認知症の理解について指導している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の開催については2ヶ月に1度の開催まで至っていない。開催時はグループホームの現況報告や話し合いによって委員より意見をいただき、サービス提供の際の参考にしてている。	包括支援センター職員、町内会、コミュニティセンター職員、民生委員、家族参加のもと、率直な意見をいただき日々のサービス提供に活かしているが、メンバー間の日程調整が難しく2カ月に一回の開催までは至っていない現状である。	利用者、町内会代表の参加もいただき、これまでの評価結果を踏まえ、現在の取り組み状況についての意見をもらえるように計画的な日程調整を行い、年6回の開催が出来ることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは新規サービス実施についての連絡をとりあっているが、事業所の取り組みや現状を伝えたり協力関係の構築までにはたっていない。近隣のグループホームとは合同の行事を実施したり現状の報告を含みながらの相談・協力をおこなっている。	特に包括支援センター職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議のみならず、折に触れて、細やかな相談、連絡、助言等がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスを通して身体拘束についての理解を実施。日中は玄関の施錠はせず身体拘束しないケアについて話しあっている	定期的に事業所内研修を実施するなど職員の意識統一がなされ、カンファレンスの中でも話題にする等、職員の共有認識を図り、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を通し虐待についてやその背景について話し合う機会をもうけている。事業所内では本人に不利益なことはないか検討している。	虐待防止に向け、職員のストレスが蓄積されないよう、勤務体制の工夫や事例を基にした内部研修、外部研修を実施して、虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みが行われている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は元包括支援センターの職員であり事業や制度についての理解をしている。ご利用者には司法書士への相談をしている方もおり、必要時は管理者から情報提供をしている。職員研修は特に実施していないため大まかな理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度介護保険の改訂があり料金も変更となった。ご家族への説明は不十分な点があったかと思うが、説明させていただきながら確認いただいた		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは主に毎日2回のお茶の時間の会話の際に希望や苦情など聞かせていただいている。毎年開設記念を祝う会の日に家族会を開催している。その他意見箱の設置をしている。面会等来られた時にこちらからの相談も含めご家族の意見をお聞きしている。また苦情ヒヤリハットを活用し、ご利用者ご家族の声を検討している。	年1回家族会を開催、家族の参加は積極的である。何でも話し合える雰囲気づくりに配慮した中で、こまやかに家族の意見、要望を伺っている。面会時にいただいた意見に対してもミーティング、職員会議等で協議し改善に向けて努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議とカンファレンス・内部研修の日を設け、職員会議には施設長も同席している。業務変更や職員の処遇改善も含め率直な意見交換や検討を実施している。	職員全員から反省や、来年度の目標、行いたい研修や検討してもらいたいことを書き出してもらい、施設長も参加する毎月の職員会議で検討している。そこでは自由闊達な意見要望が発言され、出された意見は運営会議の中で協議する等、風通しの良い運営体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議で出された雇用に関する課題は理事長、施設長、事務長で検討されている。時間のかかる課題も多いが改善に向け具体化している事柄もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年事業計画に職員の次年度の事業計画を策定する際に各職員に希望を聞き、研修受講につなげられるようにしている。新入職員に対しては、有する資格によって介護技術も含めた新人向け研修を受講してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの主催する地域ケア会議や事例検討会に出席している。また年2回の花火見物を他グループホームと合同で実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	平成22年12月の入居以来新入居は無いが、申し込みの際に来訪していただき本人から現状や思いを聞くなど、可能な限り実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。申し込み時や入居前の事前面接時また入居前にご家族の希望をお聞きし、ケアプラン作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談では在宅時やサービス利用時に本人が実施していたことをホーム内でも継続出来るように、本人や家族からの情報を収集している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開所して約4年8名のご利用者は継続してホームで生活されている。1名の方も焼く2年経過しようとしており、職員はご利用者との馴染みの関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の報告や面会時また必要時にご家族へ本人の状況報告をし、課題が挙がったときにはともに考え協力していただいている。	家族の面会時の他に毎月、本人の日頃の状態を手紙で報告をすると共に、本人から自宅への電話連絡の希望があれば対応する等、関係が途切れないように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族をはじめ知人との訪問などがしやすいような雰囲気心をかけている。地域のスーパーへの買い物や地元の八百屋からの配達、ご利用者が在宅時通ったラーメン屋やずし屋への外出等実施	面会時間は自由で、いつどなたが来られても良い。また、出来るだけ本人や、家族の思いをお聞きし、行きつけの理髪店、スーパーへの買い物、在宅時利用した食堂など馴染みの場所に出かける等、一人ひとりの生活習慣を尊重しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者はそれぞれの役割を持ち実施することで共同生活を営んでいる。育てた花を他利用者に見せて楽しませてくれている場面もある。ご利用者同士の関係性には職員が介入し配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者は現在まで1名。意図的にこちらから連絡をとってはいないが必要時相談、支援の体制はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面の中で本人に聞きながら、本人の望むことをしていただいている。食事の嗜好調査や誕生日にどんなものが食べたいかなど本人のやりたいことに合わせての役割分担もできるよう努めている。	開設から丸4年、意向の表現が出来ない方、又、出来た事が出来なくなる等、一人ひとりの様子を見ながら対応している。利用者のやりたい事や役割も出来ている方等、変化に応じてアセスメントに書き足しながら共有と支援に繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	9人中8名は開所して以来変わらないご利用者であり職員の開所からの職員が半数以上のため、なじみの関係に情報がプラスされている。カンファレンスや職員会議でも新入職員にも理解できるようご利用者の情報を共有できるように努めている	利用者の記録は入居前の聴き取りでこれまでの暮らしや好きな事等が書き込まれている。また、日常会話からも聞かれる事柄の気付きに応じて、日々の記録に挙げる等、職員間で共有している。	入居前の面談やその後の気付いた情報も記録されているが、生活歴のアセスメント表があると変化や付け足しをすることにより、一枚で状況把握が見えてくる。職員間の共有化の助けになるので、書式作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記より、入居して4年になるご利用者がほとんどなので4年間で役割分担が自然とされている。認知症の進行はあってもご利用者自身が役割を認識して過ごされている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の会話の中で、意向を聞かせていただいたり、自然なかかわりから出てきた言葉を逃さないように心がけている。家族とは十分話し合いがされてはいないのが課題である。職員間では毎日の申し送り時や毎月のカンファレンス・職員会議の時間を利用し、支援について検討している。	業務中、記録書記の時間が設けられ、見落としのない申し送りに努めている。毎日がモニタリングと心がけ、随時のミニカンファレンスや職員会議で検討し、必要に応じ変更しながら生活に配慮されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中夜間を通して気づいたことを記録に残したり、ご利用者の言った言葉をそのまま記載するように心がけている。支援の難しい事柄については職員が発した言葉を記載することで支援の方法を共有できるようにし、工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の支援を考え、業務を変更するなどしている。急な買い物同行の希望など対応しきれないこともあるができるだけ意向に添えるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方たちのお手伝いや外出同行により、少ない職員数をカバーし、またボランティアさんとのコミュニケーションを楽しみにしておられるご利用者もいる。しかし地域資源の把握も含めまだ至らない部分である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関を希望されている方には基本的にはご家族の介助で受診していただいている。また受診介助が難しい場合には職員が同行している。認知症に関しては専門医と連携し調整を図っている	協力病院が法人の関係上、遠方であることが受診上少々時間がかかっているが、家族の協力を得ながら実施されている。利用の多い皮膚科で往診してくれる医院を開拓中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師との連携により急変時の対応をしている。現在訪問看護ステーションとの契約を検討中である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者はグループホーム開設前に同法人の包括支援センター・居宅介護支援事業所に勤務していたため医療相談室の相談員とのかかわりがあり、必要に際しての情報収集を実施。またご利用者入院時にも葉早い段階で相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年に1回の家族会において、重度化した際の質問にお答えしたり、反対にこちらからのお願いなど話し合っている。幸いご利用者の認知症の進行が緩やかなため重篤な事例は現在無いが、以前退去された方の対応から、事業所として対応できる事柄をまとめた文書を準備してある。	以前、急変の為、退去された経験から、職員も重度化の認識や研修を積む必要性を感じており、対応にむけてはこれからも適切に対応していく予定である。家族会の際には、重度化について双方の意見交換を大事にしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、AEDの講習会を実施。また緊急時の対応、連絡等について確認している。また昨年警備会社の緊急連絡システムを導入。夜間の不審者の訪問についても検討した	各種訓練もなされ、急変や事故対応については見直し、付け足しの上、新人を含めた全職員に周知している。法人の事故対策委員会にも定期的に参加し検討されている。警備会社との繋がりは夜勤者の心強い協力となっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上のさまざまな場面を想定しての避難訓練を実施。法人職員とも一種に訓練している。また今年4月に事業所の地区に消防団が結成され、11月に訓練があるということで、参加する予定でいる。	火災・地震・夜間等避難訓練も実施され、備蓄・備品も備えられている。地区に消防団も結成され訓練に参加しながら関係構築を図っていく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時にはたのご利用者気づかれないような声かけを実施。ご本人のプライバシーや認知症の進行を予測させること、またご家族のプライバシーの保護にも配慮している。	今年は新人職員が増えた事もあり介護上でのプライバシー、会話での気付き、注意点等、新人教育や基本の見直しに繋がっている。記録書きは利用者の前ではしない等、細かい事も共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なじみのかかわりの中で自分の希望を話せるように心がけ、地震で決めやすいように選択肢を出している。意思疎通が難しい方に対しても本人の行動や表情から察したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを乱さないように配慮しているが、職員の業務や思いが優先することもある。基本理念や運営方針に立ち返る機会を持ってご利用者優先に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気に入ったものを自由に着ていただき、聞かれた場合はアドバイスする。またちぐはぐな着方になった場合は本人の気持ちを傷つけないように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1年に1回の嗜好調査や外食時は写真入の献立を利用。すし屋への外食時は自分で選んでいただく。	食事の満足度調査や嗜好調査、日々の会話の中からも聞きだし、メニューに生かしている。誕生日に何を食べたいか等、楽しみに繋がっている。調理や片付けも出来る所は丁寧に声掛けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みだけでなく、食事量、認知症の進行による食物の認識についても考慮しながら食事の準備をしている。また飲み物の好みや水分を好まない方にも飲んでいただけるように試行錯誤している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療と連携し、口腔内の定期的なチェックなど実施。介助が必要なご利用者には自室での口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自身で排泄の行為が難しい方には排泄表をつけトイレ誘導している。皮膚疾患のできやすい方もいるため布パンツの利用等の配慮している。	尿意のない方、確認の難しい方、皮膚トラブルの出方にもそれぞれ、表情やチェック表を活用している。又、パンツ、パット、トイレ、見守り等、その人に合わせて細かく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通のために寒天のおやつや飲むヨーグルトを飲んでいただく等工夫している。気候を見ながら散歩など運動面も気を配っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居以来4年なり2年なりの間に、ご利用者の希望を聞きながら、入浴される時間や頻度もほぼ一定している。ご利用者の必要にあわせていつ入浴するかも検討しながら実施している。	開所以降、入居者の変更がほとんどなく、希望も概ね決まっており、安定した生活の流れの中で様子を見ながら声掛けがされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動の時間と休む時間は個々に合わせながら実施している。また夜間の申し送りの中でご利用者の睡眠時間を把握し、日中の休息について配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすべての内服薬についての理解はしていないかと思われる。服薬している薬がすぐ見れるようにファイルしており、内服薬の変更は記録や連絡帳で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯干し掃除などのほかに、園芸や買い物時の介助などご本人の得意なことややりたいことなどをしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者とは担当職員が2人で出かける「二人でデート」をもうけ、個々の行きたいところへ出かけてもらっている。集団の外出のように遠慮することなく楽しまれている	それぞれの希望は利用者にとって特別な日となり楽しみに繋がっている。日常的には地域の買い物、外食、散歩と、その日に合わせて出かけている。集団外出に気の向かない利用者がいれば、その人に合わせて職員一人対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でおこずかい程度の額を管理している方はいる。2人でデート時に自分の好きな買い物を楽しめることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望時ご家族への電話をいただいている。手紙は年賀状を書く方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が不快にならないように、特に音には配慮している。職員の足音や食事時にはゆっくり集中して食事が食べられるように、テレビを消し、音楽を流すなどしている。	食堂・居間の大きな窓越しに緑が目一杯入って来て四季を深く感じられる。生活の中に配慮があり利用者は静かで落ち着いた雰囲気の中、仲間と自由に集える空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは皆が集う場所になっており、一緒にテレビを見ながらおしゃべりしている。居室では一人の時間を落ち着けるようにそれぞれのしつらえをご本人やご家族におまかせしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅から持ち込んだものやご家族と本人が選んだものを置き一人ひとりが使いやすいように自由に使用している。	入居と共にご本人の居室となる為、家族からも協力していただき、持ち込み品、好きな物、飾り付けも含め使いやすい部屋に作り上げてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は死角が多く、見守りにくい状態では有る。建物内の危険箇所がないかという確認や家具の置き場所など事故につながらないように気をつけている。		